



蓮



香



学校教育目標 “強く、正しく、明るく” 未来を創る明德健児
R7児童会テーマ “ひびけ歌声 元気なあいさつ 明るい心 明德キッズ”



文責：校長 木谷光男



ハッピーデー 明德運動会

運動会のちょうど1か月前の4月24日（木）PTA全体会がありました。その席で校長から次のような話をしました。「2年前の140周年記念事業の一環として始まったハッピーデーを継続していきます。特別な日に設定されるハッピーデーですが、先生たちには、頑張りや成長、伸びを認め、子どもたちの毎日がハッピーデーとなるように取り組もうと話しています。また、子どもたちを、毎日の些細な出来事にハッピーを感じることを考える思考に育て、幸せな人生を送ることにつなげていきたいと思います。例えば、友達とニコッと笑って挨拶を交わした、カレーがめちゃくちゃおいしかった、掃除してゴミがびっくりするほどとれてきれいになった、梅のいい香りがしたなどです。」

明德運動会は特別なハッピーデーでした。当日・当日に至るまでの競技や運営などに取り組む子どもたちの姿を見てきました。その姿からは、楽しさだけでなく、心の成長や力の向上を感じました。子どもたちのドラマとともに校長として感じたハッピーをお届けします。



選手宣誓の役を担った2人の6年生。誰もいないグラウンドで、練習を始めていました。運動会を活気付けるトップバッターとしての宣誓。かなりの責任がのしかかったはずです。「声の大きさは大丈夫かな。」「間の開け方はどうかな。」悩みながらのスタートでした。しかし、練習をするたびに自信が高まっていることが、目や表情、声の大きさなどから伝わってきました。緊張に打ち勝ち、心が強くなった瞬間でした。

徒競走。自分より足の速い友達はいます。子どもたちは、それを一番分かっています。しかし、あきらめるわけにはいきません。前を見て、歯を食いしばり、必死に腕を振るたくさんの子どもの姿がありました。その必死さに、見ている私は心を打たれました。勝負は時の運。あきらめようとする自分の心に勝ち、最後まで力を出し尽くすカッコいい子どもたちでした。





1年生にとっては、小学校生活の様々なことが初めて。特に大きな行事は、保護者や地域の方も参観し、日ごろの学校生活とは様子がずいぶん違います。そのため、行事の楽しさとともに、見通しがもてない大きな不安もあります。練習を重ねるごとに、自分の動き方も分かり、自信が出てきた1年生。その自信が、大勢の保護者や地域の方の前でも、のびのびと自己表現する姿に。日に日にたくましさの増す1年生です。

右の写真は、学級を2つに分けた赤組と白組の子どもが一体となって掛け声をかけている場面です。これまで、各色の中で、また、色同士で様々な葛藤があった子どもたち。その子どもたちが、運動会当日に向けて、対戦する色同士であるが、同じ学級の仲間として、「ベストを尽くして戦おう。」という気持ちを高めてきた姿が、絆を強めた学級全員での円陣に表れました。



高学年になると、競技をするだけではありません。当日は、司会、競技を盛り上げる実況放送、ゴール付近での着順札の配付と誘導、救護、用具準備・撤去等、大忙しです。その忙しさを喜びに活動する子どもたち。また、先生と積み上げてきた準備が、様々なことが起こる当日も、冷静に、臨機応変に対応する姿に表れていました。責任をもって仕事をやり遂げる凛々しい姿は、頼もしく、賢く見えました。

色別対抗選手リレーに選ばれた、各学級の足自慢の子どもたち。周りから見ると「足が速くていいな。」と思います。ただし、選ばれた本人には、相当なプレッシャーがかかります。全競技の最後を飾り、全校の子どもたちの目が注がれる中で走るだけでなく、バトンパスの様子も見られるのです。選手の子供たちは、違う学年の仲間と意思疎通をしてバトンをつなぐために、毎朝、バトンパスの練習をしていました。その努力が実を結び、「バトンパスが上手!」と感嘆の声がもれるほどでした。



学校報を掲載してい明德小HPでは、カラーで画像を見ることができます。どうぞ、ご覧ください。